

# No. 1243

## 新生中日スタート

中新監督、稲尾ピッチングコーチ、井手、高木守両内野守備コーチも揃って、中日ドラゴンズの秋季練習は一段と熱が入る。昨年の秋季練習が稔って今年高成績をあげた大島や鈴木孝政。中監督は「徹底して選手をきたえる。そうすればファンによるこぼれるゲームが出来るだろう」とひかえめに語る。稲尾コーチは「巨人をたたく。そうする事がひいては日本のプロ野球の発展につながる」。と力強い弁。また井手コーチも「行動力の森下コーチのあとだけに大変だが一生懸命頑張る」と若手コーチらしい発言。中新体制のもと、新生中日は元気にスタートした。

## 渡航待つベトナム難民

ベトナム戦争が終って早くも2年半になる。世間は戦争のいまわしさを忘れかけているがいまなお、ベトナムを脱出する難民が続いている。神奈川県藤沢市のある宗教団体の収容施設にはそうした難民が米国など、定住先の入国を待ちながら、不安な日々を送っている。生命の危険をおかしてベトナムを脱出した難民はその理由を「共産国家には自由がない。親類に行くにも許可が必要だし、自由がほしいからだ」と話す。「日本は単一民族なので異民族が日本社会に同化しにくい」などの理由から日本政府は仮上陸を認めているにすぎない。日本滞在中の難民の費用は国連から出資される。ひとり1日につき900円が生活費として支給されるが、この中から渡航費用までまかわけなければならない。物価高の日本で生活は楽ではない。家族いっしょにとる食事は難民にとってなによりの楽しいひとときである。難民のひとりが先生になって行われる授業が子供たちの日課になっている。時々、近くの原っぱに出かける。故国の歌を合唱したり、ゲームをしたりしてつい暗くなりがちな気持ちをまぎらわせる待ち焦がれていた米国からの便りがやっと届いた。今夜はウエン・バン・マイさんのお別れパーティ。ベトナム統一の落し子とも云えるベトナム難民、いま戦争の後遺症の中・必死に生きようとしている。